

公の施設目標管理シート（直営）

問合せ先 025-373-6600

年度	平成29年度		
施設名	新潟市曽我・平澤記念館	所管部・課	南区役所地域課
施設の設置目的	曽我量深及び平澤興の遺品及び関係蔵書を収集し、保存し、及び公開することにより、曽我量深及び平澤興の業績を顕彰するとともに、市民文化の向上に努めます。		

当初予算(千円)		当初人員(人)		作成日	H29.7.12
歳入	38	正職員	1	修正日	
歳出	5,466	非常勤		評価日	H30.6.24

No.	視点	目標	評価指標					参考・補足	主な事業等	目標達成状況 未達成理由	評価	
			項目	H26実績	H27実績	H28実績	H29目標					H29結果
1	市民	入館者がゆっくりくつろげる場の提供	喫茶コーナーの設置	1ヶ所設置 約1,775人が利用した	1ヶ所設置 約1,769人が利用した	2か所設置 計2,331人が利用した。	2か所設置 計2,000人の利用を目指す。	2か所設置 計1,800人が利用した。	夏場(6月～9月)には氷水をポットに入れ「冷水」サービスとして来館者に涼を味わってもらおう。	・セルフサービスでのコーヒーコーナー設置 ・冷水サービス(ポットに氷水) ・日本茶コーナーを設置	来館者の減少により利用者も減となり目標達成できませんでした。	C:未達成
2	業務	庭園の維持管理、景観の向上	特に芝生の維持管理を徹底し、芝刈りを行う。	芝刈り5回 除草3回 薬散布4回	芝刈り6回 除草5回 薬散布4回	芝刈り5回 除草3回 薬散布6回	草刈、除草、薬散布合計年11回	草刈、除草、薬散布合計年11回	景観を良くすることにより、来館者がゆったりとした時間をすごしてもらえるよう環境整備を心がける。	芝刈り4回、除草3回、薬散布4回	目標どりの作業を実施し、目標達成できました。	B:達成
3	財務	消費電力の省エネ化	入館者がいない時は、消灯に心がけ、電力消費の減少に努める。	5.7%減の25,214KWhを達成した	約1%減の24,942KWhを達成した	目標の99.7%の26,420KWhを達成した。	26,400KWhを超えない使用量をを目指す。	目標の98.7%の26,059KWhを達成した。	前年度実績を超えないよう、不要な点灯に注意する。	こまめな消灯	こまめな消灯により、目標達成できました。	B:達成
4	財務	ガス消費量の省エネ化	冷暖房の温度管理を徹底する。	21.8%減の4,356㎡を達成した	296㎡増の4,596㎡(+5.5%)を使用	目標の103.2%の4,953㎡であった。	4,900㎡を超えない使用量をを目指す。	目標の120.7%の5,915㎡であった。	館内の気温上昇を抑制する為の工夫を講じていく。	温度管理の徹底	今冬は寒冬で冬型の気圧配置となることが多く、低温・多雪だったことが大きな要因となり、ガスの消費量が多くなり目標達成できませんでした。	C:未達成
5	業務	防火訓練の実施	公共施設である記念館の防火訓練を全職員を対象に行う。	年2回	年1回	年2回	年2回	年2回	新潟市消防局南消防署職員の指導の下、初期消火訓練を実施し、初動体制の更なる強化に努める。		9月と1月に予定どおり実施し、目標達成できました。	B:達成
6	人材	情報の共有化と人材育成	地域課との打合せ会議、コンプライアンス研修、情報セキュリティ研修など年3回以上実施	—	—	年11回	年8回	年11回	臨時職員にもコンプライアンス等の研修を実施するとともに、所管課である南区地域課と情報交換会議を行い、その内容についても共有を図っていく。		研修や情報交換会議などを実施し、目標回数を達成できました。	B:達成
7												
8												
9												
10												

取り組みについて(目標設定の考え方など)	総合評価 (評価を踏まえた課題分析・方向性など)
<p>曽我量深、平澤 興、両偉人の記念館としてふさわしい施設の維持管理を行う考えで目標設定しています。</p>	<p>入館者の満足度を向上させるため、7年目を迎えた喫茶コーナーを充実させて設置して好評をいただいた。今後も来館者からゆったりくつろいでいただくため、おもてなしのサービスにつとめていきたい。また、くつろいでいるときに視界に入ってくる環境美化についても、こまめに芝刈りや草刈りなどを行い、来館者からはお褒めの言葉も頂戴したこともありました。</p> <p>エネルギーの節減対策については気候変動との関係もあり、目標を達成できなかった部分もあるが、今後も来館者からゆったりとした時間を過ごしていただくために空調運転にも心がけ目標達成に向け努力していきます。</p> <p>職員の資質向上については、年3回の研修に加え、係会議の報告を併せて行ってきたことなどから、同じ考えで全員が執務することができました。</p>